平成30年度 第47回 全国老人クラブ大会

兵庫県から代表29名が沖縄へ

12月4日・5日に、『第47回全国老人クラブ大会』が沖縄県宜野湾市沖縄コンベンションセンター等で、老人クラブの発展と高齢者福祉の向上を目的に開催され、全国から約1,500人、兵庫県からは29名が参加しました。

1日目は、4つの活動交流部会が実施され、参加者は各部会に分かれ研究協議を行いました。第3部会「老人クラブ高齢消費者被害防止キャンペーン」では、兵庫県老連中村会長が座長を務めました。

2日目は、沖縄県立博物館・美術館館長田名真之氏が「琉球・沖縄の歴史と文化」について講演、アトラクションでは、沖縄県立南風原（はえばる）高校郷土芸能部による琉球舞踊が披露されました。その後の式典において、老人クラブ活動に貢献された個人・団体に対して全老連会長より表彰され、続いて左記の大会宣言が朗読されました。

兵庫県の表彰受賞者・団体

育成功労者（敬称略）
真鍋　宣征（西脇市）
田畑　　勉（豊岡市）
山﨑　喜夫（西宮市）
金川　　寛（加古川市）
優良老人クラブ連合会
相生市高年クラブ連合会
豊岡高年クラブ連合会
丹波市老人クラブ連合会
南あわじ市緑地区老人クラブ連合会

大会宣言（抄）

平均寿命の延伸によって“人生百年時代”の到来が予測されるようになりました。一方で増加する高齢者を支える社会保障制度の持続可能性が問われています。

このような社会情勢のなかで、老人クラブの健康づくりや友愛活動をはじめ、官民が一体で取り組んでいる新地域支援事業への参画は一層重要性を増しています。

（　中　略　）

沖縄県は、古来よりアジア諸国との交易によって国際色豊かな独自の文化が育まれてきました。私たちはこの地で受け継がれてきた「ゆいまーる」（相互扶助）の精神に学び、次の事項の実践を誓い、ここに宣言します。

一、老人クラブ「100万人会員増強運動」をすすめます
一、「友愛活動」の充実と「新地域支援事業」を支援します
一、高齢者の尊厳が守られる諸制度、地域共生社会の実現をめざします

平成30年12月5日
第47回 全国老人クラブ大会

2019（平成31）年度　兵庫県老人クラブ連合会事業計画（案）

第１ 基本方針

人口が減少する時期を迎え、団塊の世代と呼ばれる方々が高齢化する中で、元気な高齢者には社会の支え手として益々活躍が期待されている。こうしたことから、「健康」「友愛」「奉仕」の三大運動のもと、健康寿命をのばす継続的な健康活動とともに、地域で助け合い・支え合いの活動を行ってきた老人クラブに対しては、これまでの活動経験を生かせる「地域支援事業」への参画等、安心して暮らせる地域社会づくりの担い手として、地域ニーズに応じた活発な活動が期待されている。

また、老人福祉法制定当初と現在とでは、社会の状況や人々の価値観が大幅に変わっていることから、社会の変化に対応した今日的な「老人クラブのあるべき姿」を追求し、老人クラブ会員が楽しさとやりがいを実感できる活動にしていくことが求められる。

公益財団法人兵庫県老人クラブ連合会は、社会に開かれ信頼される老人クラブとして、高齢者の健康寿命をのばす健康づくりや介護予防活動、ひとり暮らし・高齢者夫婦世帯への声かけ等の友愛活動、並びに「新地域支援事業」における生活支援の担い手としての参加、子育て支援等次世代の育成や見守りに取り組む。さらに、東日本大震災等の被災地支援活動、高齢者の交通安全、高齢消費者被害防止、美化・環境にやさしい活動等も推進していく。

また、市町老連会長研修会やスポーツ大会の開催等により、ブロック・市町老連間の交流を図るとともに、先駆的な取組事例についてホームページなどを通じて情報発信するなど、市町老連や地域の老人クラブが、単独では実施しにくい諸活動を支援する。

さらに、平成30年度まで会員増強運動として、組織の基盤である会員の増強に取り組んできたが、老人クラブの解散や休止があり、会員数やクラブ数が減少した。これまでから各市町老連においては、「魅力ある老人クラブづくり、クラブの活性化」を目指して精力的な取り組みが展開されてきたところですが、今後も女性・若手会員の力を活用した活動により、新たなニーズに対応した活動を実践し、老人クラブの充実を図っていくことで、会員増強に繋げていく。

わたしたちはのじぎくクラブ兵庫の活動をサポートしています